

HDS029-02

会場:302

時間:5月24日 11:00-11:15

沿岸海域活断層調査「布田川・日奈久断層帯」全体概要と主な成果 Offshore active fault survey "Futagawa-Hinagu Fault Zone" -Outline and main survey results

楮原 京子^{1*}, 坂本 泉², 滝野 義幸², 井上 直人³, 北田 奈緒子³, 越後 智雄³

Kyoko Kagohara^{1*}, Izumi Sakamoto², Yoshiyuki Takino², Naoto Inoue³, Naoko Kitada³, Tomoo Echigo³

¹産総研・活断層・地震研究センター, ²東海大学, ³地域地盤環境研究所

¹AFERC, AIST, ²Tokai Univ., ³GRI

布田川・日奈久断層帯は、阿蘇外輪山の西側斜面から八代海南部に分布する長さ 100km におよぶ長大な活断層帯である。主に右横ずれと断層南東側の相対的な隆起を伴い、断層帯南西部では並走する断層によって小規模な地溝帯が形成されている。このうち八代海海底活断層群は、断層帯南西部にあたり、北東-南西走向の多数の断層から構成される。海底下の更新統には断層活動に伴った累積的な変位が認められ、一部には完新統の変位も報告されている（国土地理院, 1982, 1984; 千田ほか, 1991; 熊本県, 1998; 九州電力, 2008）。しかし、八代海海底活断層群は変位様式や活動履歴に関する情報は十分ではなく、活断層の分布も機関によって異なる。そこで発表者らは平成 22 年度沿岸海域活断層調査「布田川・日奈久断層帯」として八代海海底活断層群を対象とした調査研究を行った。

調査では、産総研、東海大学、地域地盤環境研究所が協働して、1) 高分解能マルチチャンネル音波探査（産総研）、2) パラメトリック方式高分解能音波探査（東海大学）、3) ピストンコア調査（地域地盤環境研究所）を実施した。高分解能マルチチャンネル音波探査では、八代海海底活断層群の分布および変位様式を、パラメトリック高分解能音波探査では、断層の詳細位置・形状と変位量を、ピストンコア調査では、断層帯の活動時期、活動間隔などの活動履歴と平均変位速度を明らかにすることを目的とした。本発表では、調査の全体概要と主な成果について報告する。

キーワード: 布田川・日奈久断層帯, 沿岸海域, 活断層, 音波探査, ピストンコア, 横ずれ断層

Keywords: Futagawa-Hinagu Fault Zone, Offshore, active fault, sonic survey, piston-core, strike-slip fault